

令和4年度

事業報告書

社会福祉法人 柏寿会

福光園ケアハウス老楽園

特定施設入居者生活介護、

介護予防特定施設入居者生活介護

〒021-0902

一関市萩荘字大袋 306番地1

電 話 3 2 - 2 5 1 0

F A X 3 2 - 2 5 1 1

目次.....	1
1. 沿革.....	2
2. 運営方針.....	2
3. 事業実施内容.....	2～6
4. 当年度の目標の反省.....	6～7
5. 入退居の状況.....	7～9
6. 入院・通院状況.....	9
7. 介護度の状況.....	9
8. 行事实施状況.....	10
9. ボランティア、慰問、実習の受け入れ状況.....	10
10. 研修実施状況.....	11
11. 事故報告.....	11
12. その他.....	11～12
13. まとめ.....	12

1. 沿革

ケアハウス老樂園は、平成 17 年 3 月 12 日、一関市萩荘大袋に開所しました。

利用定員 20 名、職員 5 名で事業を開始し、同施設内には、老樂園デイサービスセンターが併設されています。平成 22 年 4 月 1 日には、本部の福光園特別養護老人ホームが大袋に移転新築され、二階部分に特定施設入居者生活介護、利用定員 20 名が増床されました。介護付きケアハウスの開所により、ケアハウスの入居者にとっては、住み続けられるという安心感が強まりました。

2. 運営方針

事業の目的

要介護状態となった場合でも、その利用者が可能な限り、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事等の介護、その他日常生活の支援、機能訓練を行うことにより、利用者の心身機能の維持及び利用者の家族の身体的負担の軽減を図ることを目指す。

又、個々の尊厳を重視することで、自分らしさや生きがいの構築をサポートしていく。

3. 事業実施内容

① 食事の提供

おらえ

- ・コロナ対策で料理をする機会に制限あり、作って食べる楽しみの機会をつくれませんでした。作って食べる楽しみより、機会は少ないが、市販の物を買って季節の物を楽しむことをしました。今後も、制限ある中で季節の物を楽しむこと、日常の会話から「これ食べたいよね」「そろそろ〇〇が出始める頃だね」を拾い、食べる楽しみに繋げていきたいと思います。
- ・身体の低下、病気の進行により、今まで食べていたものが食べられなくなっていく、自分で食べられなくなっていく方がいました。その時にまだ食べられる食形態、食器を検討し自分で食べられる方法はないか考えていくことが出来たと思います。今後もありうることなので、出来ることを考えていくことを継続していきたいと思います。食べるのが難しくなった時の判断、ご本人様はまだ食べられると思うケースもあり伝え方の工夫が今後も出来るように努めていきたいと思います。
- ・コロナ禍のなか思うように外出や買い物ができず、嗜好品を月に1回は職員買い物代行、ご家族に買い物依頼をし続けることが出来ました。
- ・「みんなと一緒に揃って食べる」と思う方もいることを理解し、事前の声掛けを工夫して、遅れてしまったという気持ちにならないようにしています。
- ・糖尿病以外に脂質の制限、果物禁止とみんなと同じものが食べられない方が増えました。看護師と相談をしながら、どうしたら食べる事が出来るか考え工夫し今後もつなげていき

たいと思います。

CASA

・コロナウイルス対策で、おやつ作りや行事ごとの制限があり、自分で作って出来立てを食べる機会が減っています。季節のものを味わうことは忘れず、職員提供の野菜を料理して食べたり、季節ごとの行事には作って食べること、回数は減りましたが継続することが出来たことは良かったと思います。火を通して・衛生面に注意を払いながら、今後も食で楽しむことを続けていきたいと思います。

・食事介助に時間がかかる入居者さんに対し、厨房の協力のもとソフト食の方に昼食・夕食を早出しにて提供しています。早めから食べ始め、焦らず食べることが出来、介助に要する時間もゆっくり持つことが出来ています。

・体重減少…食事が思うように摂れない方へ、型にとられない食事の提供を心掛け実践することが出来ました。体重減少の方・食が細い方へは高カロリーゼリーをお出しし、美味しく栄養を摂れるように実践し、結果食欲が戻っています。食べることへの理解が難しくなった方へは、おにぎりにしたら食べられるか？棒に刺してアイスのようにしたら食べられるか？状態に合わせて工夫を続けることが出来ました。

・入居者さんより何か手伝う？と声を掛けて頂く場面が出始め、コロナ対策でなければ味噌汁の味噌を溶いて貰えるのに…と思い残念に感じることもありましたが。今後は手洗い・消毒と手袋使用にて、入居者さんの出来ることを増やしていけるように努力します。

② 入浴

おらえ

・入浴介助に入る職員が固定(勤務で日勤が固定されているため)されている状況は続いています。慣れている職員という面で安心感がある一方、たまにしか対応に入らない職員は不慣れと遠慮があるようでした。いつもの入り方がわかるように対応の仕方をメモし、情報の共有に努めています。

・女性職員希望の入浴と、時間帯の希望に関しては、事前に入浴日を相談しては入れない日が続かないように配慮をし、不満につながらないように努めました。

・パーキンソンの疾患がある方については、身体の状態に合わせて入れるときに入浴できるように努めています。

・入浴対応時に皮膚状況を確認するよう努めますが、継続的に見ていくことができず、口頭での報告はあるも表の活用は継続しませんでした。

CASA

・入浴前血圧を測定する、毎日の健康観察を続けることで体調に考慮した入浴が出来ています。今日は調子が良くないと感じた日は無理せず、入浴日を次の日に変更する等の配慮も定着しています。

・入浴拒否をされる傾向あり、声掛けを工夫しています。どのようなタイミングで何と声を掛

けると拒否が少ないか、色々試して一番良い案で定着しています。強く拒否される場合には職員 2 名にて対応したり、時間を置きトライすることも出来ています。

- ・看取り期の入浴、身体清拭の体調への配慮を十分に行い、気持ち良く過ごせるように支援することが出来ました。しかし粗暴行為が強くあり、入浴時のケガや意識喪失のリスクが高まってしまったケースでは、思うように身体の清潔を保てない場面もありました。

- ・入浴対応に入る職員が皮膚状況をチェックするよう努めるも、入浴対応に入る職員は日勤の職員が多く、皮膚状態の変化を見逃してしまうケースが多くありました。どの職員が支援に入っても皮膚状態の変化(皮膚トラブルや外傷)に気づける目を養っていく必要があると感じました。

- ・身体上、入浴対応に入れられない職員がいる中、時間の使い方を工夫して入浴支援しています。「声を掛け合い出来る職員が出来ることをする」今後も定着させていき、チームで支援していきます。

生活相談・健康相談

共通して

- ・通院の付添い・送迎に関して、定期通院以外に、ご本人、ご家族の要望により、又健康管理の面から、随時希望の病院への通院送迎をしています。

- ・LINEを活用した画像・動画の情報の共有を開始、行事ごとの際には写真を撮りメッセージとともにお送りすることで、暮らしの様子をご家族と共有する機会が再開出来、今後も継続して欲しいとの声が届いています。

- ・コロナウイルス流行に伴い、面会制限が出ており、体調の変化、心身の変化についてご家族と情報共有が難しい状況、直接会って話をして様子を知ると電話口で様子を聞くのとでは伝わり方が違うこと、改めて感じる 1 年でした。電話口では出来るだけ詳細に様子をお伝えし、直接電話を代わってお話をする機会を持つよう心がけることは出来ています。

- ・ケース記録はマイナスな部分の記録だけではなく、会話の内容や、楽しんだことも伝えられるように心掛けています。また、時間の使い方改革としてケースの内容を簡略化しています。簡略化されても、小さな幸せに目を向けたケース記録が今後の目標です。

- ・定期健康診断の結果を通院時に主治医に報告しています。

- ・毎日 2 回の定期検温、入浴前の血圧測定により早期に体調の変化に気づき、通院に繋がっています。

おらえ

- ・入居者様の対応や日々の変化については、受け止める職員によっては重要度に差があることを理解し、伝え方を工夫しながら共有しています。

- ・認知症の方とのトラブル、性格的に合わない人間関係については配慮した対応、会話術が求められていくので、今後も情報の共有、生活空間の使い方を工夫し今後も務めていきます。

・コロナ禍でより会えない状況のなか一筆箋を継続し、写真でも様子をお伝えできるようにしています。

CASA

・毎月、全員のご家族へケース記録と写真入り一筆箋をお送りしています。ご家族へ何か相談をする際にも、「写真見ました」「記録にも書いてありましたね」と話される、電話だけよりも伝わりやすいと感じることも多いです。面会が出来ない今、普段の老楽園での生活の様子をお伝えする為の大切な手段となっています。

・看取り期に入られた方のご家族面会は、感染症対策に留意しながら予約にて実現出来ています。制限の多い中ですが、最期をご家族と過ごせるようタイミングを図ってアプローチすることが出来ました。

・認知症や精神疾患の症状から、気持ちの不安感や不調を訴えられる入居者さんが多くおり、気持ち面での支援量が増えています。いつものことだと軽視せず、立場に立った返答やサポートの仕方を学びつつ、依存され過ぎないような支援の技術を身に着けることが今後の課題です。

③ 余暇活動の支援

おらえ

・コロナ禍で集団でのレク、外出制限ができない状況の中、個々で行える余暇はないか、その方に合わせた余暇活動を見つけています。集団で過ごすからみんなと一緒に思う方も多く、個々で好きな余暇というよりは、みんなで同じものをするということが多くありました。

・普段見られない映像や、歌、体操などユーチューブを活用し余暇の一つとしています。頼りすぎてしまう場面もあり、その方に合わせてユーチューブはメリハリをつけて活用を今後はしていきたいと思えます。

CASA

・外出制限について、自宅に行ったり美容院に行ったり買い物に行ったりという日常生活も制限せざるを得ない状況に対してのストレスを強く感じられる方に対し、カット＋ヘアカラーまで対応して頂ける美容室の来園、職員が買い物を代行すること継続しています。思うようにいかない暮らしですが、コロナウイルスの感染の動向を見ながら継続して工夫を続けていきたいと思えます。

・季節感を大切にしたい暮らしを目指していますが、コロナウイルス流行に伴い、外出の制限や面会の制限があり、日常に戻るにはまだ時間がかかりそうです。室内で出来る楽しみに着目しつつ、天気の良い日には外へ散歩、室内散歩やテレビ体操の機会ですら運動不足解消を図る等、支援を考え実行しています。

・youtubeでそれぞれが好きな曲や歌手をお聞きして観賞しながら歌う・テレビ体操をかけて一緒に運動する・お花見やお祭り等季節のものを流して四季を感じる等日々の暮らしに定

着していますが、YouTube に頼りすぎている？と感じる場面もありました。少しの時間でも職員と一緒に何かする、会話を大切にすることは忘れずに YouTube は活用していきたいと思えます。

④ 疾病や災害等、緊急時の対応

- ・身体が悪化や健康状態の対応としては、ナースコールでの対応、看護員の判断による通院、急変時の対応や各所への連絡と、迅速な対応が来ています。
- ・災害時の緊急対応については、避難訓練を実施し、災害時できるだけ慌てず対応出来るよう備えて行きます。
- ・災害、急変時どちらも慌てず対応出来るよう、こういう時はこう動く等、日々の申し送りの中で想定出来ることを確認し合い、心構えを大切にしていけます。急変にてAEDを3回使用することがありました。心肺蘇生の方法について、慌てず早急な対応について再確認する機会となり、急変時の対応をスムーズにするため、入居者さん毎に【緊急時連絡票】を作成、何かあった時に役立てています。
- ・コロナウイルス罹患者・濃厚接触者が出た場合に備え、マニュアルを随時更新しながらシミュレーションすること心掛けた 1 年でした。蔓延時期には職員が罹患・濃厚接触者となるケースが数件あり、ケース毎に早急な判断が必要とされ、初動で集まり対応を決めながら隔離対応、ゾーニングを行うことが出来ています。

4. 当年度の目標の反省

重点目標の反省

令和4年度の重点目標

自分らしく、さりげなく、何気なく。和やかで楽しい我が家を目指します。

- ② 小さな幸せに目を向け、大切に支援します。
- ② 出来ないで終えず、これなら出来るに変換し対応します
- ③ コロナに負けない

(コロナ禍で様々な制限を受ける中、心身ともに健康でいられるよう支援します。)

・老楽園特定施設開設当初から掲げていた目標をもう一度確認し合おうと立てた重点目標でしたが、何人の方が我が家と思って頂けていたかなとお聞きしていますが、「家ではない」「家に帰りたい」と思っている方が大半でした。自分の家には敵わないけれど、今の自分の居場所として心地よく安心出来る場所を目指して行きます。

・小さな幸せに目を向けること、日頃のちょっとした変化や面白いエピソードが活発に申し送りに上がることで、自然と支援に笑顔が生まれるきっかけが出来ました。しかし、マイナスな面ばかりに目を向けた意見交換がなされる場面もあり、見方を変える活発な雰囲気づくりが今後の課題と感じました。

・制限のある生活だから出来ない、人が少ないから出来ないと悲観的にならず、ちょっとした時間を活用しての会話や散歩、支援をしながらの関わりを大切に支援しています。行事も家族を呼んでは出来ないけれど、施設内でいかに楽しく出来るか考えたり、ご家族と会えない分電話や写真でお互いを大切に思う気持ちを届ける工夫をしたり、何なら出来るかなに目を向けるようにしています。そういった支援を得意とする職員が苦手な職員と協力し、次年度は一緒に盛り上げていくことが目標です。

・コロナに負けない！という目標を立てた1年、暮らしの制限やご家族との時間を持ってない時期、濃厚接触者に該当した期間はお部屋での隔離生活と、心身に良くないことが多くありました。我慢しての暮らしはストレスが多くあり、気持ちが沈んだり精神疾患や認知症状が悪化してしまったり、引きこもりの生活は足腰を弱くさせたり、地域へ出る・自分でやる意欲を減退させてしまったりと、悪循環が起きています。4月以降は面会や外出の制限が緩和されてくるので、少しでも我慢の少ない暮らしを目指していきたいです。

その他

・職員の入れ替わりがあり、新体制でのチームとなっています。職員の動ける幅にも変更がある中、お互いが出来ることを出来る限りするチーム、足りないところを補い合えるチームになれるよう、声を掛け合うこと意識しています。相談員や看護師も職員手薄な時間帯は介護支援に入り、施設一丸となり支援を継続することが出来ました。

・入居者個々の暮らしが途切れないよう、ケース記録を的確に入力しながら、各ユニット独自に申し送りシートを作成、どの職員が見ても暮らしの変化や心身の様子が分かるよう工夫することが出来ました。しかし、自分の苦手分野の申し送りには手を出さない傾向があり、限られた職員同士でのやり取りで終わってしまうことも見受けられています。根本的なスキルアップが今後も継続しての課題です。

5.入退居の状況

(1)入退居状況

令和4年度中の入居者 6名

令和4年度中の退居者 7名

【退居理由】

① 死亡退居 6名 ②他施設入居 1名

令和5年度末の利用者 19名

(2)月別入退居状況及び充足率

月	月初利用者数	入居	退居	月末利用者数	充足率
4	20	0	0	20	100
5	20	0	0	20	96.3
6	20	0	2	18	91.6
7	19	1	0	19	90.3
8	19	0	0	19	91.5
9	19	0	0	19	90
10	19	1	0	20	95.3
11	20	0	0	20	100
12	20	1	2	19	95.2
1	19	1	2	18	87.4
2	18	0	0	18	90
3	19	2	1	19	98.7
計	232	6	7	229	94.4%

(※充足率は空室・入院・外泊も含める 前年 97%)

(3)入居前住所別利用者数

[令和5年3月31日現在]

入居前住所	計[名]
一関市	18
宮城県栗原市	1
計	19

(4)年齢別・男女別利用者数

[令和5年3月31日現在]

年齢(代)	男性[名]	女性[名]	計[名]
～69	0	0	0
70～79	0	1	1
80～89	0	6	6
90～99	1	11	12
100～	0	0	0
計	1	16	19

(5)平均年齢

〔令和5年3月31日現在〕

	男性	女性	男女
平均年齢	97	90.4	平均年齢 90.7
最高年齢	97	99	最高年齢 99
最低年齢	97	71	最低年齢 71

(6)手帳

〔令和5年3月31日現在〕

性別	種	級	肢体	視覚	聴覚	内部	複合	計
男			0	0	0	0	0	0
女	二種	4級	0	0	1	0	0	1
	二種	5級	1	0	0	0	0	1
計			1	0	1	0	0	2

6. 入院・通院の状況

ケアハウス職員が病院に送迎した回数(送迎で1カウントする)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
通院	33	31	41	31	19	28	24	31	28	23	21	23	333
入院	0	2	2	0	1	1	1	0	1	1	0	1	10
訪診	5	3	5	4	4	3	5	1	3	5	1	7	46

前年度通院回数 342 回、入院 16 名、訪診療 72 回

7. 介護度の状況

〔令和5年3月31日現在〕

	男	女	計
自立	0	0	0
要支援1	0	1	1
要支援2	0	0	0
介護度1	0	1	1
介護度2	0	4	4
介護度3	0	7	7
介護度4	1	3	4
介護度5	0	2	2
計	1	18	19
平均介護度	4	2.9	2.96

8. 行事の実施状況

月	CASA	おらえ	個人活動
4	25日 お花見会	25日 お花見会	誕生日会 散歩 書道 活け花 レクリエーション 理・美容院 食事・おやつ作り
5	5日 端午の節句会 9日 母の日会 19日 ヨモギ餅作り	5日 端午の節句会 9日 母の日会 19日 ヨモギ餅作り	
6		19日 父の日会	
7	28日 夏祭り	28日 夏祭り	
8	30日 花火大会	30日 花火大会	
9	15日 老楽園敬老会	15日 老楽園敬老会	
10	21日 秋味昼食会	21日 秋味昼食会	
11			
12	22日 クリスマス会	24日 クリスマス会	
1	1日 新年の会 15日 みず木飾り 餅つき	1日 新年の会 15日 みず木飾り 餅つき	
2	3日 節分・送別会 14日 バレンタイン	3日 節分・送別会 14日 バレンタイン	
3	3日 ひな祭り 後半～バツケ収穫、料理 春彼岸 おはぎ作り	3日 ひな祭り 15日 春彼岸イチゴ大福	

※その他希望に添った外出を行っています。

9. ボランティア・慰問・実習の受け入れ状況

ボランティア

頻度	ボランティア(団体名)名	内容
2ヶ月に1回	理容 Hair FREE	理容
随時	理容はぎの里	理容

10. 研修実施状況

(1) 施設内研修

月	研修テーマ
4月26日	接遇マナー・プライバシーの保護・法令遵守(コンプライアンス)・労働者の権利と義務・マニュアル検討
5月24日	事故防止再発防止・身体拘束禁止・マニュアル検討
6月27日	感染症対策(食中毒)・マニュアル検討
7月27日	非常災害時の対応・マニュアル検討
8月23日	無し
9月29日	排泄介助ケア・終末期ケア・マニュアル検討
10月28日	身体拘束禁止・マニュアル検討
11月30日	感染症対策・インフルエンザ予防・マニュアル検討
12月27日	認知症ケア・介護予防・マニュアル検討
1月27日	機能訓練・マニュアル検討
2月27日	入浴介助・マニュアル検討
3月28日	食事介助・口腔ケア・マニュアル検討

(2) 研修

- ・令和4年度社会福祉従事者新任研修会 1名
- ・介護支援専門員Ⅱ更新研修 1名
- ・令和4年度岩手県高齢者権利擁護看護看護実務者研修会 R5/2/20・R5/3/6 1名

11. 事故等報告

転倒 転落	転倒 骨折	誤嚥	予薬	離設	外傷	熱傷	自傷	その他	ひやり はっと	計
87	1	9	14	0	92	1	14	1	28	243

前年度事故合計 198 件

12. その他

防災計画

避難訓練 令和4年9月14日

総合避難訓練 令和4年10月12日

…反省…福光園と合同で避難訓練を行いました。特定は、二階にある構造上震災・火災で孤立する可能性が考えられるので、普段から福光園・老楽園との協力体制を整えたいと思います。また、河川の氾濫を想定した高台への避難訓練も実施、避難場所は老楽園特定施設で、エレベーターを使用しています。実際の災害発生時には、慌てず対応出来るよう備えて行きます。

13. まとめ

特定型は、令和4度の入居者は6名、退居者は7名でした。退居理由としては、死亡退居6名、他施設入居1名でした。

特定施設では、現在、要支援1～要介護5までの方が生活されています。平均介護度は2.96(前年3.0)です。入退居が比較的多くなりました、入退院の日数は例年に比べて抑えられ、充足率は94.4%となりました。入居希望者は、少ない現状が続いております。令和4年度は、入居が決まっても入居までの準備期間として3週間くらいかかる方が3名おりました。

新型コロナウイルスの流行により、ご家族との面会を制限、IPパット(タブレット)でLINEを使いご家族とビデオ通話出来るようにしていますが、ビデオ通話はあまり普及せず、一部のご家族の利用となりました。利用された方は顔を見ることが出来て満足していただけたようでした。LINEでの写真や動画・文章でのコミュニケーションは2～3名の方が主に利用され、特に写真等の提供は喜ばれております。前年に続き新型コロナウイルスの流行により感染症の予防に努め、入居者への感染はなく過ごすことが出来ました。

入居者間では認知症の進行により他入居者様との関係の構築が困難で思い込みからのトラブルがありました。その方を知り、職員間での連携やご家族とも情報共有をして、早めの対応を心がけ、改善しながら支援に繋がっています。

また、施設全体で入居者様の暮らしをサポート出来るよう、施設長をはじめ事務所・看護・介護が協力、日々の生活や見守り・緊急通院等がスムーズに行えています。